

第2回ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの開催

保健福祉学部看護学科 山中 道代

はじめに

ティーチング・ポートフォリオ（TP）は教員が自らの教育活動について記した文書であり、自らの教育活動を振り返り、その記述をエビデンスによって裏づけた厳選された文書である。本学では、平成25年度に教育を振り返るミニワークを開催し、平成26年度には学内で第1回TP作成ワークショップを開催するに至った。その結果、6名の教員が自らの教育活動を振り返り、本学に8名のTP作成者が存在することとなった。TPの概要と第1回ワークショップについては、2016年の黒田の報告¹⁾を参考にしていきたい。

一般的なTPの目的は、教育改善、教員業績評価、情報の共有・発信であるが、本学では業績評価にTPが活用されていないことから、学内の教員が自分自身の教育活動を振り返ることを目的に、前年度に続きTP作成ワークショップを開催した。ワークショップに参加することで、教員が自らの教育活動を省察し、教育改善につなげるための見通しを得ることを目標とする。また、TP作成ワークショップの開催を継続することで、本学でのTP普及に繋げていきたいと考える。

I ワークショップの開催

第2回ワークショップは、次の通り実施した。

日時：平成27年8月26日（水）～28日（金）

場所：県立広島大学三原キャンパス 4601 会議室 他

TP作成者：6名（保健福祉学部教員5名、他施設所属教員1名）

メンター（TP作成の支援者）：6名（保健福祉学部教員6名）

スーパーバイザー：1名（大阪府立大工業高等専門学校教員）

TP作成者は3日間のスケジュールで自身のTPを書き上げる。このスケジュールは、ティーチング・ポートフォリオ・ネットのTP作成モデルスケジュール(<http://www.teaching-portfolio-net.jp/howto/>)に準拠しており、第1回ワークショップと同様の内容である¹⁾。

II 評価

1. TP作成者の回答から分かる効果

1) ワークショップへの参加の経緯や成果

TP作成者の感想などからワークショップの改善に繋げるため、ワークショップ終了後に参加の経緯や成果などについてアンケートを実施した。4件法による設問の回答結果は、概ね肯定的な意見であった（図1）。

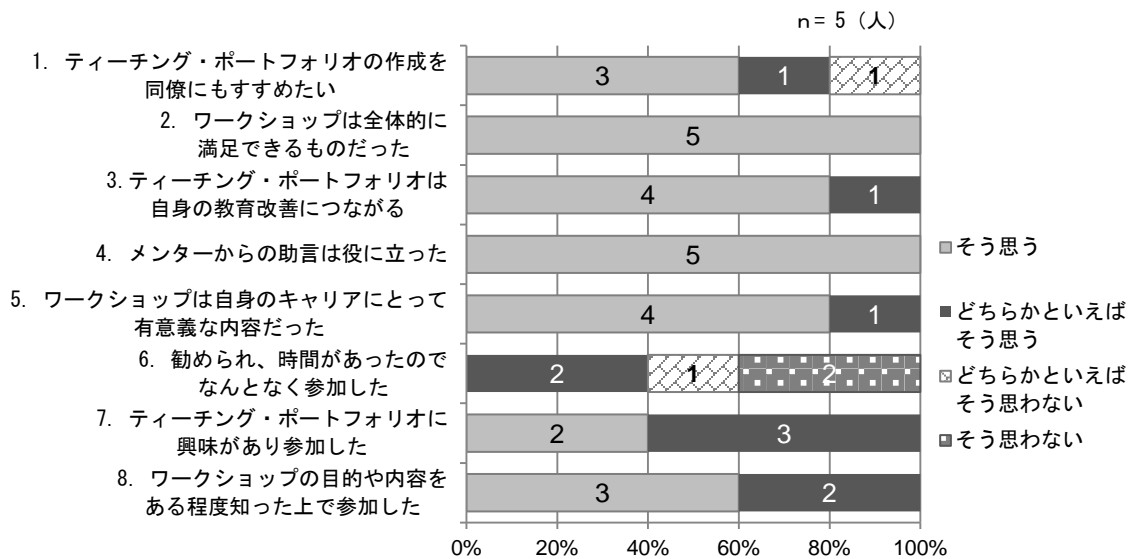


図1 終了後アンケートの結果：参加の経緯や成果（TP作成者） *質問6は逆転項目

2) TP を作成した感想（自由記述）

- ・学生に対して行っている教育も、専門職、地域住民に行っている教育も、自分の中には一貫性があるということに気づくことができた。そうすると、今までモチベーションが湧きにくかったことに対しても意義が感じられるようになった。
- ・今回明確になった理念を基盤に今後の教育を組み立てれば、より効果的な教育ができる気がする。
- ・自身の教育改善につながると言い切れないが、自分が大切にしていることは自覚して、教育に従事できると思う。
- ・普段関わりの少ない先生と教育について議論でき、また他の先生の教育論を聞くことができてよかった。
- ・普段、考えながら指導していても主観で行うことが多いが、文にしてメンターとのメンタリングの中で客観的に自身の授業について考えることができるので、授業改善には役立つと考えられる。

3) ワークショップに参加して良かったと思われる点（自由記述）

- ・自分が行ってきたことから信念を明確にできた。
- ・自分が行っているすべての教育に一貫性があることに気付けた。
- ・今後の目標を立てることができた。
- ・今後の教育へのモチベーションが高まった。
- ・長期目標が明確となり、それを達成するために今後1年くらいに私がすべき事が明確になった。
- ・自分が普段していること、仕事としていることを振り返ることができた。
- ・結局、自分はどうしたいのかということが自覚できた。
- ・普段の業務とは異質の空間のなかで自分自身を振り返る機会となった。
- ・他の専門の先生の授業についても話を聞く事ができ、新しい視点から科目を超えた授業について考える機会となったので、有益であった。

TP 作成者は今までの教育活動を単に振り返るだけでなく、今後の教育活動を考える機会となっていたことから、今後の教育に対する見通しが得られたのではないかと考えられる。これらのことから、TP 作成者に対して一定の効果があったと考えられる。

2. メンターの回答から分かる効果

1) 参加の経緯やメンターを経験した感想

メンタリングを行うことでメンター自身も教育を振り返ることができるため、メンターに対してもアンケートを実施した。4 件法による設問の回答結果は、全て肯定的な意見であった (図 2)。

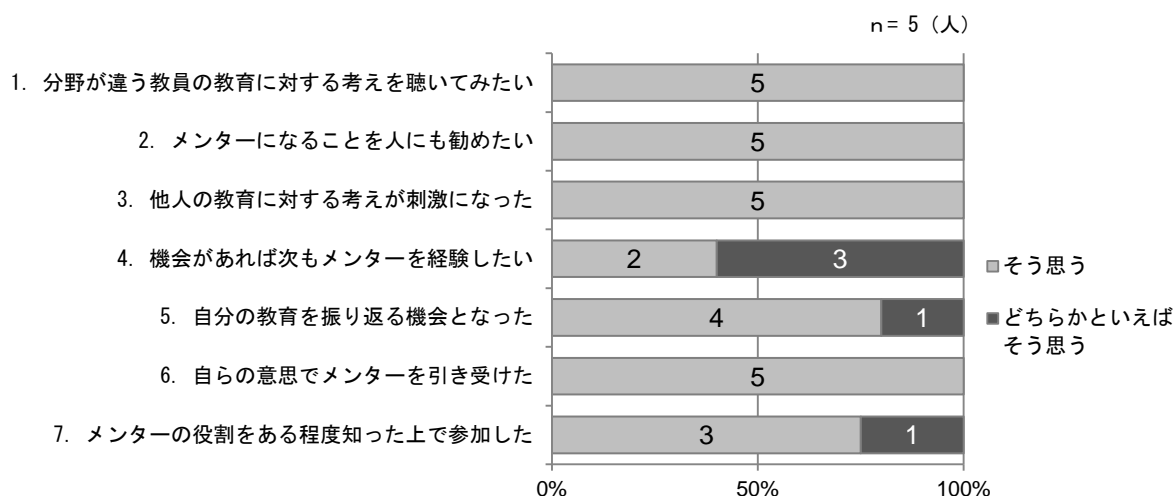


図2 終了後アンケートの結果：参加の経緯や感想（メンター） * 否定的な回答は無かった

2) メンターを経験して良かったと思われる点（自由記述）

- ・メンターミーティングでは様々な視点からのディスカッションがあったので、論理的に考えることができた。
- ・メンティが今もっている力を文章化でき今後の目標が明確になるようサポートするためには、メンティ自身が熟考でき現状を明らかにし、目標が見出せるような投げかけをしなければならないので、質問の工夫方法も検討することができた。
- ・自分自身の経験値が増えたため、今後の学部学生への質問への工夫を検討することができた。
- ・自分の分野の教育と照らし合わせて考えると、新しい考えが生まれた。
- ・新しい教育方法を知ることができた。
- ・他の人の専門職に対する思い、教育に対する考えを聞くことは、自分自身のそれらを振り返るよい機会になった。
- ・メンターミーティングでのスーパーバイザーの助言や他のメンターの関わり方やメンターとしての考えを聞くことも、自分にとってプラスになったと思う。
- ・他人の振り返りを通して、自分の教育を振り返ることができた。

- ・自分の教育をどう変えていくかというヒントが得られた。
- ・長時間一緒に過ごし、意見交換することで、今まで知らなかった人を理解することができた。
- ・分野が異なる教員の教育方法を学ぶことができた。
- ・専門職を育てるという熱意や志に触れ、多くの刺激を受けた。
- ・自身の TP の見直しをし、更なる教育方法の改善と育てたい学生像を検討したいと感じた。
- ・他の教員も自分と同じように教育方法等で悩んでいることがわかり、今後も気軽に相談できそうだと感じた。
- ・前回、自分は TP をわかっていたつもりで書いたが、色々な書き方があることが分かった。

メンターミーティングでは、作成者全員の TP について全員で検討するため、多くの教育観に触れることとなる。この時間が自身の教育を振り返る機会となりっていた。また、ワークショップの期間中は、教育について語る機会を多く持つことができることから、メンターにとっても様々な気づきを得る結果となっていた。これらのことから、TP 作成ワークショップはメンターにとっても教育改善に繋がっていると考えられる。

Ⅲ 総評と今後の課題

TP 作成ワークショップは、作成者だけでなくメンターにとっても教育改善に繋がるものとなっている。参加者が有効性を実感する一方で、全体に対しては TP の目的や意義が十分浸透していない現状もある。その中で、平成 28 年 8 月に第 3 回ワークショップを本学で開催し、広島キャンパス、庄原キャンパスに新たな TP 作成者が誕生した。このことから作成ワークショップの開催については、一定の成果を上げていると考えられる。今後は、全体への TP の浸透を図ると共に、TP の見直しによる定期的な教育の振り返りの機会を作ることも必要と考える。

平成 27 年度第 2 回ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ運営メンバー

看護学科	黒田寿美恵
	船橋眞子
	山中道代
理学療法学科	小野武也
	高宮尚美
作業療法学科	吉川ひろみ
人間福祉学科	松宮透高
	吉田倫子

【参考文献】

- 1) 黒田寿美恵：ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの開催. 県立広島大学総合教育センター紀要, 1, pp.103-107, 2016.